

# 株 主 通 信

第 1 0 7 期 近 況 報 告

2018年4月1日—2019年3月31日

komatsumateRe



証券コード 3580

小松マテール株式会社

## ●財務ハイライト

### ・2019年3月期業績

売上高 **39,078**百万円

営業利益 **2,165**百万円

経常利益 **2,778**百万円

親会社株主に帰属する  
当期純利益 **2,131**百万円

### ・2019年3月期のポイント

1. 2期連続増収を達成。
2. 海外企業との提携を含め、海外売上が拡大。
3. スポーツ・機能分野、医療・福祉分野は順調に拡大。

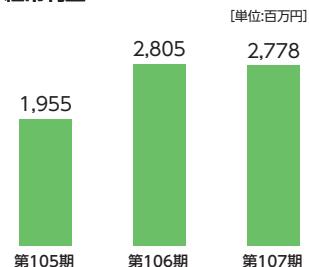
売上高



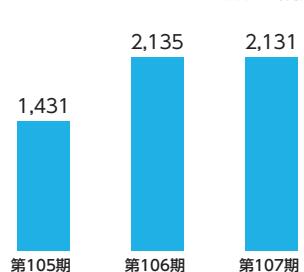
営業利益



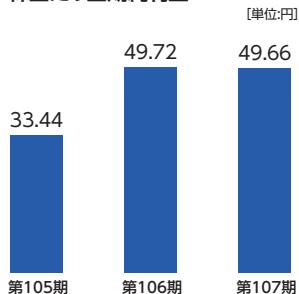
経常利益



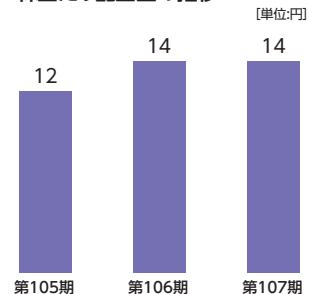
親会社株主に帰属する当期純利益



1株当たり当期純利益



1株当たり配当金の推移





## ● トップメッセージ

時代の変化にかなう企業へ。

“破壊と創造”で次なる成長をつかみます。

日頃の皆様のご支援に心より感謝申し上げます。この1年、小松マテレーは計画に沿って事業を遂行し増収営業増益となったものの、原燃料費などの高騰により、前期対比ではほぼ横ばいの結果となりました。周囲を見渡すと予想を上回るスピードで社会と市場が変化しています。激しくゆり動くこの時代を乗り越えるには、破壊を恐れず、常に新しいものを創造する挑戦が必要となっています。引き続き皆様のご理解をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 池田 哲夫

### Q1 まずは業績の概要からお聞かせください。

**池田** この1年は、ますます多様化する市場のニーズに対応するため、製品の品質向上に取り組み、グローバルマーケットに通用する先端ファブリックの開発を加速させました。とりわけ海外企業との提携を含めたグローバル市場の深耕に力を注ぎました。その結果、第3四半期までは売上げ・利益とも前期を多少上回ったものの、第4四半期では暖冬の影響などにより失速ぎみとなり、通期ではほぼ前年並みで終わりました。国内で横ばいが続く中、欧州などでファッション分野やスポーツ・機能分野が勢いを見せ、懸案であった中国でも小松精練(蘇州)有限公司が売上げを伸ばし、3期ぶりに黒字転換を果たしました。また、非衣料の

資材部門では医療・福祉のメディカル分野、機能材料を中心とした生活関連分野も着実な伸びを示しました。

### Q2 この1年、海外市場と非衣料分野の強化にどのような進捗が見られましたか。

**池田** 当社が勝ち残るため、海外を伸ばすとともに、国内の非衣料分野を強化しています。かねてより国内と海外、衣料と非衣料の比率をそれぞれ50対50にしたいと述べてきました。当期末では、海外が36.4%、非衣料分野が26.6%と伸びてはいるものの、スピードはまだまだです。

当社の海外の事業展開を取り上げますと、欧州ではフランス・パリで年2回開かれる国際素材見本市、プルミエー

ル・ヴィジョンに33回の出展を誇るほど、欧州の名だたるファッションメゾンから信頼を集めてきました。最近ではファッションの世界でも「エコ」や「サステナビリティ」が注目され、環境にやさしい素材に関心が高まっています。2014年春に上市した、タマネギの皮を活用し天然色素で染めた「Onibegie®（オニベジ）」はナチュラルな色味が評判となっています。本年2月に発表した新・「SAITOS®（サイトス）」シリーズも、原料の一部を「植物由来」のポリウレタン樹脂に切り替えたフィルムを用いて透湿防水を実現し、話題となりました。

近隣の中国においては、本年5月に海安市に子会社を設立し、新工場を建設することとなりました。成長の著しい中国市場のみならず、欧州などの需要に柔軟に対応してまいります。

また、中東では政治情勢の影響により、この数年、民族衣装分野はやや低迷していますが、当社は中東の民族衣装の生地販売に大きな強みを持っています。

次いで、非衣料分野は、メディカルを中心に好調ですが、今後は世界で巨大な産業のひとつである自動車産業用品にも力を入れたいと考えています。このほか、耐震補強材として開発した「カボコーマ」が今年3月にJR大阪駅の「昇降式ホーム柵」に採用されました。カボコーマは来年3月までにJISの認定が取れる見通しとなっています。エコ建材「グリーンビズ」も大きく育てていきたい素材です。

### Q3 強みの高次加工を使って“逆スマイルカーブ”をめざすと宣言されていますね。

池田 モノづくりにおいては上流から下流に向けたいくつもの工程がありますが、組立や製造にあたる中間工程の付加価値が最も低いことから、線で結ぶと人間の笑顔のような「スマイルカーブ」になるといわれています。それを繊維産業に当てはめると、川上の原料メーカーや、川下のブランドやSPA（製造小売業）などは利幅が高いですが、中間に位置する当社のような素材加工業は人員や工場をかかえて負担が大きく、利益が出にくい構造になっているといわれています。しかし、これからは中間に位置する当社のような企業、すなわち染色や改質など誰もが簡単には真似のできない高次加工の付加価値をもった企業が業界をリードしていける時代になると期待しています。これを私は「逆スマイルカーブ」と呼んでいます。当社が生み出す素材が最終製品の決め手となる時代が近づいていると考えています。

### Q4 人不足が深刻となり、働き方改革が叫ばれています。小松マテーレではどのような改革を……。

池田 世界のトヨタが“100年に一度”の変革期と呼ぶほどの激動が始まっています。私たちのような中堅企業が生き残るには、自分たちの存在意義をとことん問い直し、再確認する必要があります。

当社は「何のためのどんな会社か」を私は機会ある度に社員に問い直してほしいと話してきました。また、昨年、「求められる社員像」として10の提案も行いました。その提案の上から3つは、①常にお客様の満足を意識する社員

②「変える」を勇敢に実行する社員 ③受け身ではなく提案する社員、というもの。さらに課題として、グループの全社員に「徹底したロスの削減」「スピードアップと深掘り」をお願いしました。

働き方改革は、一部では残業時間の削減ととらえる向きもあるでしょうが、当社グループにとっての働き方改革は「一定の時間の中で生産性を高め、いかに成果を出すか」にあると考えています。

この春、当社に入社した49人の新入社員の初任給を入社時にさかのぼって2割程度アップしました。また、これを機に年功序列型の賃金体系にメスを入れ、人事評価制度の抜本的な見直しを指示しています。さらに、社員には敗者復活のチャンスを与えると話しました。結果は違えども、個々の社員には常に平等な機会を与えなければならないと考えています。

## Q5 米中の貿易摩擦などにより、景気の下振れリスクが増しています。来期の見通しはいかがでしょう。

池田 来期は売上高40,000百万円(前期比2.4%増)、営業利益2,400百万円(同10.8%増)、経常利益3,000百万円(同8.0%増)、当期純利益2,300百万円(同7.9%増)をめざします。

実は、7年前に企業買収したメンズアパレルのSPA企業(株)パizzoを今年1月に売却しました。その分、売上げが減少してのスタートとなりますが、一方でアパレルブランド「Co-mt.(シーオー・エムティー)」を立ち上げました。本年7月下旬には、直営店を渋谷・キャットストリートにオープンします。素材が最終製品を超越することを証明するため、BtoCのビジネスに挑戦するものです。消費者の

みならずアパレルメーカーの方々に当社の製品染めをはじめとする高次加工の技術を見ていただくこと——それによって取引先を増やし、お客様の声を商品開発に生かしていくという実験店の役割です。同プロジェクトはイタリアと韓国でも展開する予定です。

## Q6 社名変更を機に第3次創業期の幕開けと位置づけています。あらためて社長の思いをお聞かせください。

池田 昨年、創立75周年を機に、「小松マテール」と社名を変更しました。動機としてあったのは“社員の意識改革”です。進化論で知られるダーウィンは「生物で生き残るのは、最も強い者でも賢い者でもない。変化に適応した者である」と述べています。当社の75年は変化に適合しようともがき苦しみながら進化した75年といえるのですが、1つだけいまだに適合できずにいる課題があります。

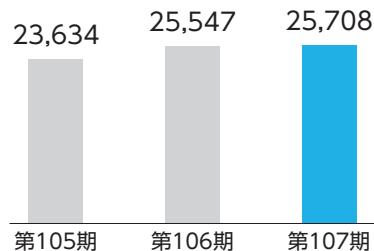
仕事は待ってればいつか来るという「受託体質」です。世界を巻き込んだ競争が激化すれば、「受託体質」という“待ち”の意識を変えない限り、これからは勝ち残れません。

先ほど述べた“逆スマイルカーブ”で本当に笑える企業へと脱皮するには、受け身の姿勢をめぐい捨てなければいけません。良い伝統とは、守るものではなく、自らつくるものと考えています。良い伝統をつくるには、変えなければならない伝統は破壊し、新しいものを創造しなければなりません。これからはスピード感をもって“破壊と創造”を続け、一人ひとりが成長を実感できるようにしたいと考えています。

## ●セグメント別の概況

### 衣料ファブリック部門

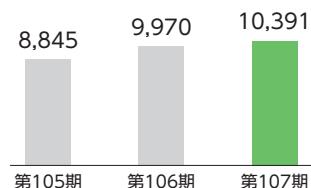
売上高 **25,708**百万円 (前期比 0.6%増)



衣料ファブリック部門は、国内外において高感性・高機能素材の開発と市場導入を進めてまいりました。なかでも欧州及び中国向けのファッション分野、スポーツ・機能分野については堅調に推移し増収となる一方、北米及び韓国向けが低調となり、中東向けの民族衣装についても市場動向により減収となりました。国内向けは総じて厳しい市場環境にあるなか、スポーツ・機能分野が順調に推移し、当部門全体は増収となりました。

## 資材ファブリック部門

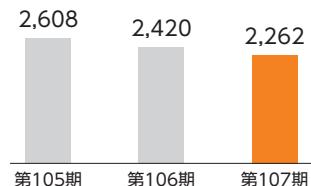
売上高 **10,391**百万円 (前期比 4.2%増)



資材ファブリック部門は、医療・福祉のメディカル分野、生活関連資材分野を中心に順調に増加し、リビング分野についても概ね計画通りに推移しました。また、車輦内装材も堅調に推移したことから、当部門全体は増収となりました。

## 製品部門

売上高 **2,262**百万円 (前期比 6.5%減)



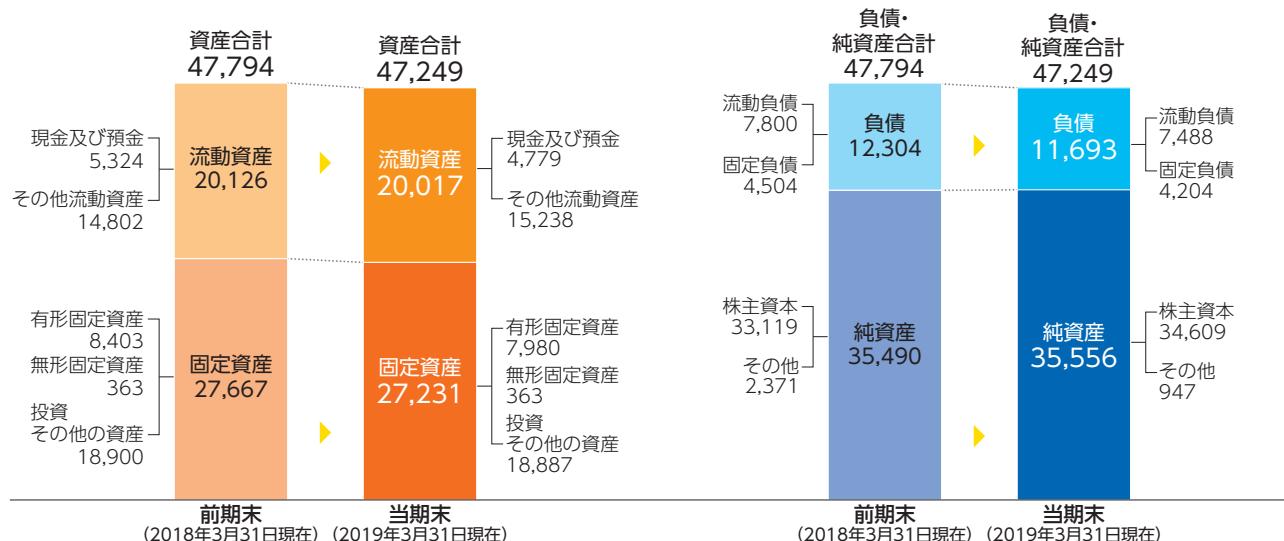
## 物流物販事業

売上高 **715**百万円 (前期比 3.5%減)

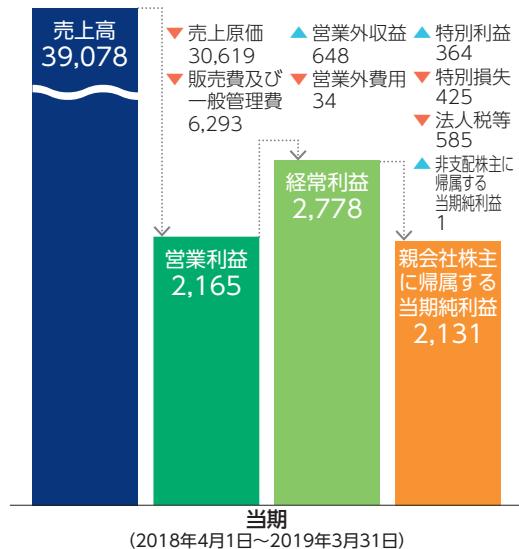


# ● 連結決算概要

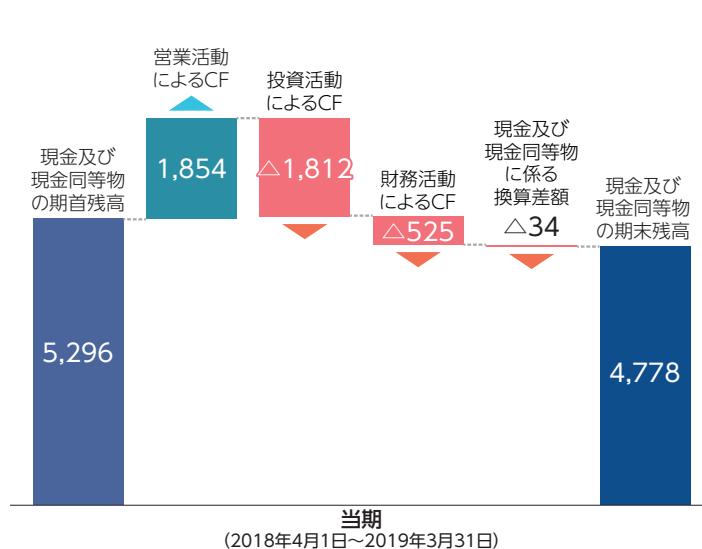
## 連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



## 連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



# Topics



## 徹底的に“製品染め”にこだわる新ブランド「Co-mt. (シーオー・エムティー)」が始動へ

昨年、小松マテーレが創立75周年に合わせて発表したプロジェクトブランド「Co-mt. (シーオー・エムティー)」。今年7月、その新ブランドのラボショップが東京・渋谷のキャットストリートにオープンします。素材メーカーである小松マテーレが、エンドユーザー向けに本格的なアパレルブランドを立ち上げるのはこれが初めてです。

「お客様への販売はもちろんですが、一歩手前のアパレルメーカーの皆さまにもぜひ、当社の技術を見ていただきたい。この店舗での発見を商品開発にいかし、お取引先を増やし、ひいては社員教育にも役立てる実験場としたい。」と池田哲夫社長が語ってくれました。

### 「技術」こそ、普遍的で優れたデザイン

小松マテーレは、約15年前に「製品染め」事業をスタートさせました。以来、失敗を重ねながら、それを糧に技術を蓄積し、現在に至ります。経験に裏付けられた高い技術力を世の中に広めてゆくため、小松マテーレは「製品染め」を軸に、「技術」や「素材」を主体とするブランドを立ち上げました。

「Co-mt.」ではあえて染料を繊維の芯部まで浸透させない新しいジャンルの技術を用いて、使い込むほどに表情の変化が楽しめるデニム調の風合いをご覧ください。また、複数の染料を独自に調合し、深みのある色味も再現できるようになりました。このように、「Co-mt.」には小松マテーレが今持つ技術の粋が詰め込まれています。2019年より、素材の良さを最大限に引き出したアパレル製品として、メンズを中心に、コート、ジャケット、ブルゾン、パンツ、シャツなどのアイテムを販売する予定です。さらに、今後、イタリアと韓国でも展開する計画です。

### 環境にやさしいモノづくり

「Co-mt.」は、いまアパレルメーカーが関心を寄せる「エコ」と「サステナビリティ」を追求しております。世界では今、大量のアパレルが生産され、売れ残った製品は大量に処分されているという現実があります。必要な分だけを「製品染め」というコンセプトがあれば、在庫を減らせるだけでなく、環境負荷への緩和にもつながります。小松マテーレは、「Co-mt.」をとおして環境にやさしいモノづくりについても真正面から向き合っています。

### ■ 「Co-mt. (シーオー・エムティー)」というネーミング

「素材と共に、皆さまと一緒に新しい価値を創る」とのコンセプトに基づき、「material」(素材)の「m・t」と、「共に」を意味する接頭辞「Co-」の2つの言葉を組み合わせたもの。



# Topics



## 「カボコーマ・ストランドロッド」の新たな展開

### 事例① JR大阪駅ホームの落下防止柵

JR西日本が試験運用を開始した「昇降式ホーム柵」に「カボコーマ・ストランドロッド」が採用されました。「昇降式ホーム柵」は、ホームに平行に5本の「カボコーマ・ストランドロッド」を張り巡らせ、電車の発着にあわせ上下に昇降する仕組みの落下防止柵です。

この新型ホーム柵は、2019年3月よりJR大阪駅（5番のりば、8番のりば）において、運用が開始されました。

安全性向上のため「落ちない駅ホーム」への要望が高まるなか、今後全国の主要な駅に「カボコーマ」を用いた昇降式ホーム柵の設置が進むものと期待されます。



### 事例② 「スターボックス」のテーブル

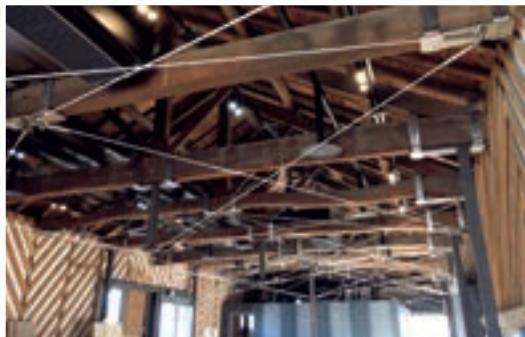
カナダ・バンクーバーのダウンタウンにある「スターボックス」のテーブルに「カボコーマ・ストランドロッド」が使用されています。

この斬新なテーブルのデザインを手がけたのは、世界的建築家の隈研吾氏。「カボコーマ・ストランドロッド」を店舗の天井と床を結ぶように無数に張り巡らせ、テーブルの天板を支持する構造とすることで、「脚のないテーブル」を実現しました。



### 事例③ 文化財「富岡3号倉庫」の耐震補強

群馬県富岡市にある3棟が連なる「富岡倉庫」のうち、3号倉庫の耐震改修に「カボコーマ・ストランドロッド」が使用されています。「富岡3号倉庫」は木造平屋の建物で、1900年に現在の場所に移築されました。この文化財の耐震補強には、カボコーマのもつ軽量で高強度、結露しにくい等の利点にくわえ、繊維の街・富岡市にふさわしいデザインとするため、意匠性も最大限にいかされています。



## 世界初、植物由来の透湿防水素材を開発

透湿防水素材「SAITOS<sup>®</sup>（サイトス）」シリーズに、環境配慮型に進化した「SAITOS<sup>®</sup>-GF（サイトス・ジーエフ）」と「SAITOS<sup>®</sup>-GR（サイトス・ジーアール）」の2つが加わりました。

2つの新素材には植物由来比率50%のポリウレタンを原料とした透湿防水フィルムを素材の外側または内側に施しています。

「SAITOS<sup>®</sup>-GF（サイトス・ジーエフ）」は、高い防水性に加えて汗ムレ解消や摩擦に強いなどの機能を発揮します。また、「SAITOS<sup>®</sup>-GR（サイトス・ジーアール）」はさらにストレッチ性を60%アップしたことにより、しなやかな伸縮性により、快適な着心地を実現しました。どちらもスポーツ衣料、カジュアル衣料などへの展開が期待されます。

さらに、よりいっそう環境に配慮した素材の実現にむけ、この透湿防水フィルムをリサイクル糸や植物由来原料の糸を使用した基布、あるいは非フッ素撥水加工などの機能加工と組み合わせることも可能です。

この2つの新素材を、先ごろ欧州で開催された服地見本市プルミエール・ヴィジョン（フランス・パリ）や、ミュンヘン・ファブリック・スタート展（ドイツ・ミュンヘン）で発表したところ、来場者の関心を集めるなど、アパレル業界においてもエコへの関心の高まりがうかがえます。こうした社会のニーズに応え、当社は今後も地球環境にやさしい素材づくりを加速させてまいります。



## 石川ミリオンスターズとスポンサー契約

小松マテレーは、日本プロ野球独立リーグ・ルートインBCリーグに所属する「石川ミリオンスターズ」と2019年のシーズンスポンサー契約を締結しました。

2019年シーズンに選手が着用するユニホームに当社ロゴが掲出されるほか、6月18日には金沢市民野球場において、石川ミリオンスターズと北海道日本ハムファイターズ2軍との交流戦を開催し、地域を大いに盛り上げました。

また、野球を通じて地域の活性化を図るため、石川ミリオンスターズと当社の野球部が合同で、地域の清掃活動や学童の野球教室を開催するなど、社会貢献活動を行ないました。



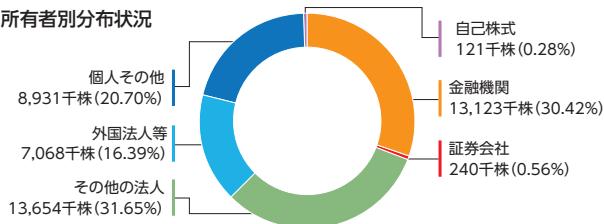
## 発行済株式総数

43,140,999株

## 株主数

6,112名

## 所有者別分布状況



## 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東レ株式会社	3,749	8.71
THE SFP VALUE REALIZATION MASTER FUND LTD.	3,377	7.85
株式会社北國銀行	2,113	4.91
小松マテール松栄会	1,502	3.49
日本生命保険相互会社	1,284	2.98
株式会社北陸銀行	1,263	2.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,255	2.91
三井住友信託銀行株式会社	1,230	2.85
株式会社クラレ	1,090	2.53
三谷産業株式会社	892	2.07

(注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日株主名簿管理人及び  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社株主名簿管理人  
事務取扱場所 大阪府中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 0120-782-031

URL <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

1単元の株式の数 100株

公告の方法 電子公告(当社ウェブサイトに掲載)  
<https://www.komatsumatere.co.jp/ir/investor/>  
※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、日本経済新聞に掲載して行ないます。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

## 住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について

株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

## 会社情報

## 役員 2019年6月21日現在

代表取締役会長 中山 賢一	取締役 奥谷 晃宏	監査役 高木 泰治
代表取締役社長 池田 哲夫	取締役 向 潤一郎	監査役 尾野寺 賢
専務取締役 中山 大輔	取締役 福井 敏明	監査役 根上 健正
常務取締役 松尾 千洋	取締役 野路 國夫	監査役 坂下 清司
	取締役 鳥越 和峰	

## グループ会社

小松精練(蘇州)有限公司	中国・江蘇省蘇州市
株式会社コマクソン	石川県能美市
株式会社コマツインターリンク	石川県能美市
株式会社セイホウ	栃木県足利市

## 会社の概況

商号	小松マテール株式会社	大阪営業所	大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号 (ハービスENTオフィスタワー8階)
設立年月日	1943年10月8日	東京営業所	東京都中央区銀座3丁目9番7号 (トレランス銀座ビルディング8階)
資本金	46億8,042万円	北陸営業所	石川県能美市浜町又167番地 (小松マテール株式会社 本社2階)
本社	〒929-0124 石川県能美市浜町又167番地	上海事務所	上海市延安西路2200号 (上海国際貿易センター1913号)
本社工場	同上		
美川工場	石川県白山市鹿島町1号7番地1		

## 小松マテール株式会社

<https://www.komatsumatere.co.jp/>